

# 千利狸の呟き

## ～ マスコミ判定が気になる ～

蒼 狸

### あるワクチンの報道

数ヶ月前、かつてがんの治療に使われたあるワクチンの報道があった。TVの意図したところは、この薬の臨床評価委員会のメンバー構成が不当で、この薬が日の目を見なかったという内容だった。このワクチンを得ようと列を作る患者さんの映像も使われた。医学的見地からの科学的判断が、マスコミの評価で価値の無いものとなった。専門家による科学的判断は、マスコミの情緒的ストーリーの前では無力なものになってしまう。その後このマスコミ判定を信じた患者さん方から、このワクチンを使って欲しいとの希望があったが、医学的見地から使わないことを説明した。

### 生化学データの基本

正常人の生化学データの分布は、連続性で多くは正規分布となる。その分布内の位置関係より正常か異常か判断される。分布の平均値 $\pm 2SD$  ( $2 \times$  標準偏差) が基準値で、ここから外れたら異常、すなわち多数派が異常を定義すると言われる。しかし正異に私信は入ってこない。

薬の効果判定も論理的判断で行われる。効果の基となるデータがあって、その上で認可するか否か総合的に判断されるであろう。一部マスコミが専門家の判断を尊重しないことは、知識不足と傲慢が故であろう。

### 世論を形成する層の実態

まず世論を形成する人々を分類する。

**関心層**：高い関心や知識・意見を持つ層

**中間層**：関心はあるが知識がなく、マスコミの意見を受け入れ自分の意見とする層

**無関心層**：知識がなく意見を持たない層

世論を形成するのは、大多数を占める中間層となる。従ってその判断に真の知識は反映されず、マスコミの意見が反映されることになる。

例えば、経済学者ケインズの「美人投票理論」でも、投資において重要なのは、自分が値上がりすると思うものを買うのではなく、多くの人が値上がりすると思うものを買いなさい、ということになっている。学者自身の考える投資より、世論の向かう方向へ動くとうまくいくのが現実。投資や投票の成否が従う法則であろう。だから、自分が選挙で選ばれたい場合は、自身の知識や高い理想を説くのではなく、世論を形成する中間層に好まれる、人気取りに徹するのだろう。

### 世論調査による世論形成サイクル

TVや新聞に出る世論調査データから、アナウンサーが例えば政府はこうあるべきと意見する。最近のアナウンサーの仕事は、客観的事実を報道することより、批判することになっているように感じる。彼らが、データを基に毎日毎日批判的意見を視聴者の脳に刷り込む。それがネガティブイメージとなり、政府に対しネガティブな世論を増強する。その後に行う世論調査データが更にネガティブなものとなるので、ネガティブサイクルの完成となる。

### まとめ

前述したように、医学は論理的に動き、世論はアナウンサーが動かしている。本年6月から施行される、医療機関の広告に関わる規則を読み、なるほどと納得した。一部報道番組は、番組制作者の独善的解釈が目立つ。医療界で当然のことでも、報道など分野が異なれば異なる判断もあるからか。しかしマスコミには、真に視聴者のためなる番組を作成すべく、常に専門家の意見を取り入れたものにして欲しいものだ。医療に関連する報道には、広告規制の趣旨と同様の何らかのガイドラインが必要と思われる。